

会員各位

協会だよりー259(7月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第221回月例会(講演会)・・・間近となりました
日 時：7月10日(木) 13時～17時
会 場：エッサム神田ホール2階(201) 多目的ホール(100名収容)
題目：PPS(特定規模電気事業者)と再生可能エネルギーのお話
講師：(株)エヌパワー代表取締役社長 中山貴晴氏
日本再生可能エネルギー総合研究所代表 北村和也氏



積丹半島神威岬と神威岩(江戸時代はこれより北は女人禁制の地)

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
- 二. 会員の異動(社長就任) 田中貴金属工業様
- 三. 事務局より(七月度の予定)
- 四. 【雑学】笈の小文編(1) くさ蕉が憧れた吉野山の
桜を愛でる(伊賀から吉野へ)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー258(6月号)をメール&郵便で送信(6/1)
- ② 平成26年度会員名簿の発行と発送(平成26年5月末現在)(6/20)

【予定事項】

- ① 第221回月例会・幹事会
日時：平成26年7月3日(木) 16:00～17:00
場所：協会事務所(ニュー新橋ビル601-A)
幹事：アマタ(株)、(株)光正、日誠金属(株)、クラリアント触媒(株)の4社

② 第221回月例会 (講演会) 開催

日時: 7月10日 (木) 13時~17時

会場: エッサム神田ホール2階 (201) 多目的ホール (100名収容)

題目: PPS (特定規模電気事業者) と再生可能エネルギーのお話

講師: (株)エヌパワー代表取締役社長 中山貴晴氏

日本再生可能エネルギー総合研究所代表 北村和也氏

③ 第二回運営委員会

日時: 平成26年7月17日 (木) 16:00~17:00

場所: 堺化学工業(株)東京支店会議室

出席: 運営委員、第221月例会幹事 (アミタ、光正)、第222月例会幹事 (小島化学薬品、双日)・・・敬称略

④ 第222回月例会 (見学会) のご案内予定 (首都圏外郭放水路見学) (7/18)

2. 会員の異動

(社長就任のお知らせがありました)

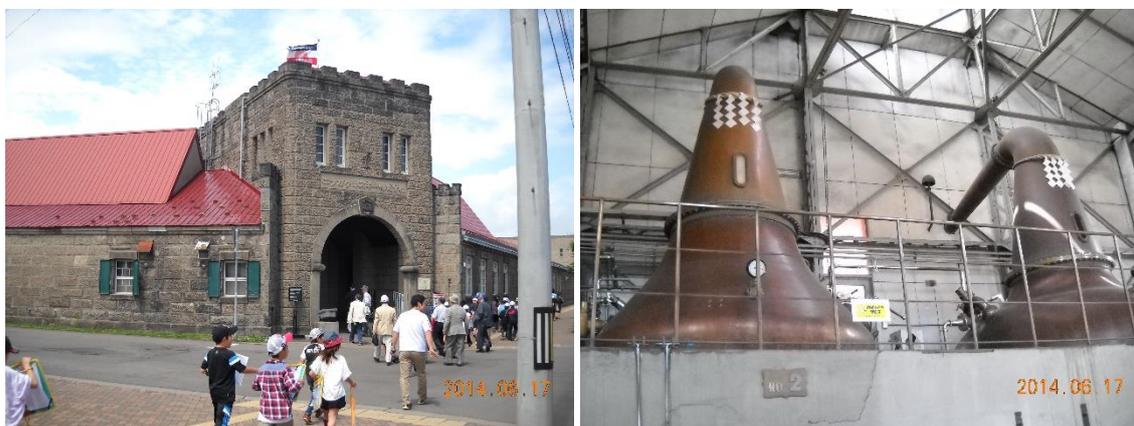
- 田中貴金属工業株式会社殿

(前) 岡本英彌様 ⇒ (新) 田苗 明様

3. 事務局より (7月度の予定)

月	火	水	木	金	土
6/30	1	2	3	4	5
×	○	×	221 幹事会	×	×
7	8	9	10	11	12
×	○	○	221 月例	○	×
14	15	16	17	18	19
×	○	×	運営委員会	○	×
21	22	23	24	25	26
海の日	○	7/23 (水) 出発、47/27 (日) 帰国 (海外旅行予定)			
28	29	30	31	8/1	8/2
×	○	×	×	○	×

7月度の出勤予定: 11日間

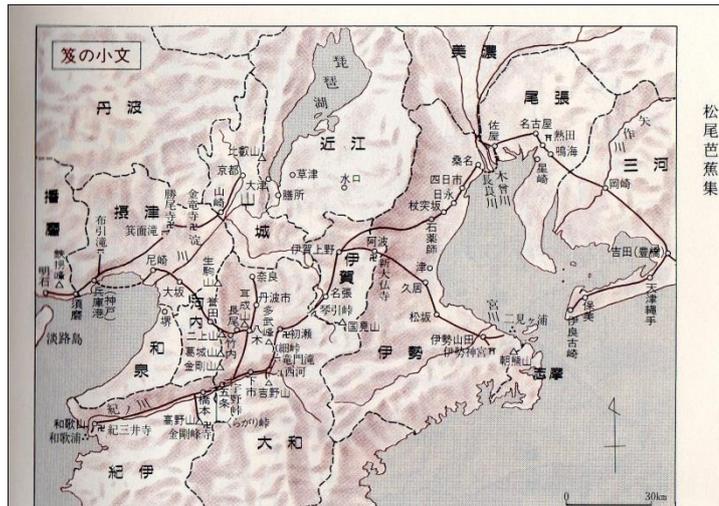


ニッカウキスキー(株)余市蒸留所とポットスチール缶 (単蒸留缶)

【雑学】笈の小文編(1)～芭蕉が憧れた吉野山の桜を愛でる～(伊賀から吉野へ)

笈の小文は、芭蕉さんが貞享4(1687)年10月に江戸を出発、東海道を下り、伊賀上野の故郷で越年し伊勢を詣で、三河保美に隠遁する杜国(とこく)を伴い吉野の花を見、高野山、和歌浦、奈良、大坂、須磨、明石を翌年の4月まで旅をした紀行文で『卯辰紀行』とも呼ばれています。

貞享元(1684)年に旅をした野ざらし紀行では「野ざらしを心に風のしむ身かな」と詠んで、旅先では野ざらしになるのも覚悟して江戸を出発しましたが、この笈の小文では「旅人とわが名呼



松尾芭蕉集

ばれん初しぐれ」と詠み、杜国を誘って旅に出る、うきうきとした気持ちが現れています。笈の小文、更科紀行の旅が終わった翌年、曾良を伴って奥の細道へと出かけています。

私たちの旅は笈の小文のクライマックス部である伊賀から吉野です。名古屋まで東海道新幹線、名古屋からはバスの旅になります。東名阪自動車道で三重県に入り、最初の目的地・伊賀市柘植に向います。

《柘植・芭蕉公園(福地城址)》三重県伊賀市柘植



満壽寺の脇を通り芭蕉公園に向います。芭蕉さんは伊賀上野が生誕地となっておりますが、ここ柘植で出生し、のち伊賀上野で育ったとも言われ、柘植も第二の生誕地となっております。芭蕉さんの先祖は福地氏の一族であったので、この柘植にある福地城址を芭蕉公園と名付けて句碑や生誕碑が建立されています。また柘植は伊賀忍者の里、芭蕉隠密説も生まれています。嵐山孝三郎などには芭蕉さんも徳川の隠密にされています。

まずは福地城址にある句碑を拝見！



そばはまだ花でもてなす山路かな(続猿蓑)
この句は元禄7年9月に芭蕉の門弟、伊勢の斗徒が伊賀の山家に芭蕉を訪ねて来たときの挨拶句と言われています。



古きとや臍の緒に泣く年の暮れ (笈の小文)
 この句は貞享4 (1687) 年歳末、伊賀上野の兄半左衛門の家での作とされています。

私たちは福地城址 (芭蕉公園) に別れを告げ
 柘市街の芭蕉生誕地跡へと向います。

《芭蕉翁生誕宅跡碑》三重県伊賀市柘植

この場所は、街中の空き地の一角に、碑がそろりと鎮座しているところで、大高先生の引率でやって来る芭蕉さんの追っかけグループでなければ来ない場所かも知れません。



芭蕉翁生誕宅跡

遠き昔、翁の先祖は平宗清に発し戦国時代には日置、福地、松尾、北村の兄弟が柘植郷一带に構えていた。天正の乱後、福地氏は破れ駿河に走った。主人の弟と一時土民化したが、その後世の治まるのを待ちこの村に戻り松尾の寄株となりここに落ち着いた。(説明板を参照)

《新大仏寺》三重県伊賀市富永 1238

芭蕉さんが訪れたとき新大仏寺は山崩れ等で荒廃し、一丈六尺 (約 4.8m) の大仏があった台座 (石) のみが目の前にありました。境内には笈の小文の俳文「新大仏寺記」の全文が刻まれた丈六塚が建立され、その俳文を現代文にした石碑が脇に設置されています。



丈六に陽炎高し石の上 (笈の小文)

石台の上には仏像がなく、そこには丈六ほどの陽炎が立って、大仏の面影を偲ばせるという意味です。

その後再建された新大仏寺では、国宝になった大仏を大仏殿（屋内）に大切に保存しています。また本堂の裏手の崖には高さ10mほどの磨崖仏（石仏）がつくられています。



新大仏寺は東大寺の大仏請願の伊賀拠点であったため東大寺の伊賀別所となっています。

さて昼食のため、伊賀忍者の Mascot のある上野のドライブインまで戻ります。ドライブインでは伊賀忍者の Mascot がお出迎え、昼食には伊賀牛の牛鍋がお出迎え！



昼食後バスは一途、奈良県に向けて出発です。暫しうとうとしている内に、三重・奈良の県境を越えてしまい、午後の目的地・長谷寺のある桜井市初瀬に到着です。

《長谷寺》奈良県桜井市初瀬731-1

長谷寺に向う参道がバスには狭いので門前商店街の入口で下車、脇を通る車を避けながら徒歩にて長谷寺へ向います。やっと石標のある参拝口に着いてみると本堂はさらに山の中腹あたり。覚悟をして出発、息を切らしながら一步一步、約400段の登廊を上ります。さすが足にききます。



長谷寺は真言宗豊山派の総本山、桜の名所としても知られているところです。



長谷寺の拝観料は五百円（大人）
 四百段有る、かの有名な登廊、行く
 先が遙か先で見通しがききません。
 私たちは登廊を黙々と上ります。

● 本堂東にある芭蕉さんの句碑



春の夜や籠もり人ゆかし堂の隅 (笈の小文)
 芭蕉と杜国は三月十九日に伊賀を発って翌日は長谷寺へ詣でた。初瀬に参籠した夜、高貴な女人が籠もっているのが、おぼろげ見ると参籠の情景を詠んだものといわれています。

《初瀬・崇蓮寺》 奈良県桜井市初瀬 1100



長谷寺を下山して、参拝口に戻り、右手に行くと崇蓮寺があります。崇蓮寺は浄土宗のお寺で、ここの境内にある芭蕉さんの句碑も

「春の夜や籠もり人ゆかし堂の隅 (笈の小文)」ですが、長谷寺の句碑はごく最近のもので、こちらの句碑は約 240 年前の安政年間 (1772~1781) に建立されたと言われています。江戸時代に建立された句碑

は塚といわれ、この句碑も「芭蕉翁籠もり塚」と言われています。

5 箇所も見学した本日の勉強はこれで終了、本日のお宿、ホテルアジュール・奈良アネックス (奈良市四条大路1-4-45) を一路目指します。

【文責：専務理事】